

2001.12.10

子育てが「楽（ラク）」と「楽しい」は別。 B a B U 「子育てについてのママの意識調査」 最新報告

です。

博報堂B a B U (Baby business project)は、博報堂の社内プロジェクトで、子供を持つことで変わる消費意識や子育てに関する情報収集と発信を行い、生活者・企業・社会に対して「明るく楽しい子育て」を提案しています。このたびB a B Uメンバーである母親に対し、「子育てに関する意識調査」を実施し、結果をまとめましたので、ご報告申し上げます。

今回の調査では、「育児ストレスとその解消」や「育児における気持ち」、「家族の協力度」などについて、実際にどうだったかを聞いています。また、有職の母親（キャリアママ）と専業主婦の母親（専業主ママ）で違いがあるかなどの比較も試みました。

その結果、「育児は大変でストレスも感じるけど、楽しい」「周りの人の助けを得ながらも、中心になって育児にがんばる母親」の実態が明らかになりました。また、育児ストレスを乗りきるためには、「仕事をはじめたり」、「ママ友達ができる」など、子供と1対1で向き合う生活の中で、「子供との生活以外の時間を持つ」こと、「話し相手ができる」ことが重要であることも明らかになりました。

以下、ご参考いただければ幸いです。

CONTENTS

- 最新調査 母親に聞く「子育てに関する意識調査」
- B a B Uとは

このインフォメーション・ノート に関するお問い合わせは

（株）博報堂 広報室 宮川・寺島
TEL 03-5446-6161
FAX 03-5446-6166

e - mail : NAOKO.MIYAGAWA@hakuodo.co.jp

第1STP局 山本
TEL 03-5446-7463

調査結果速報

<調査概要>

調査対象者：0歳～5歳の子供をもつ20代・30代母親（BaBUネットモニター） 346名

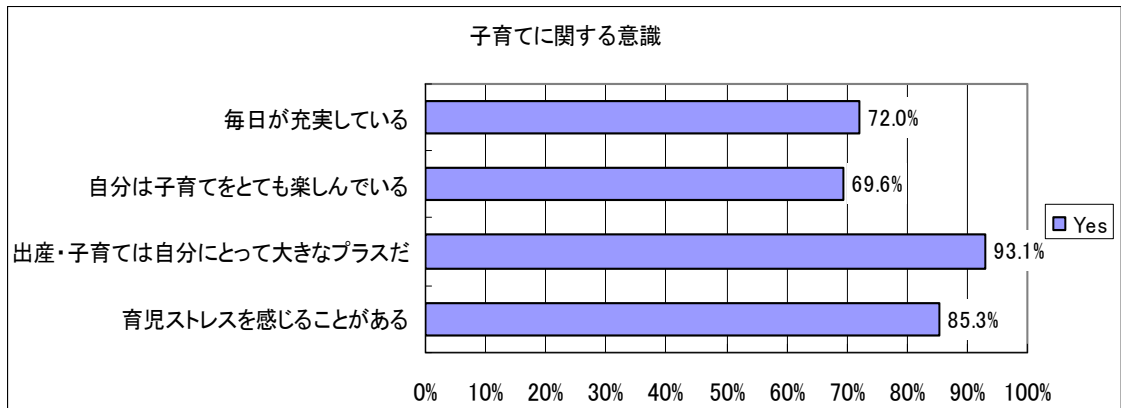
調査方法：インターネット調査

調査時期：2001年9月末～10月初

◆子育ては楽しいし、自分にとっても有意義なことだと思う。 でも、85%の人はストレスを感じる。

毎日が充実している、子育てをとっても楽しんでいると答えた人は約7割。
出産や子育ては自分にとって大きなプラスだ、という気持ちは実に93%の人が感じています。

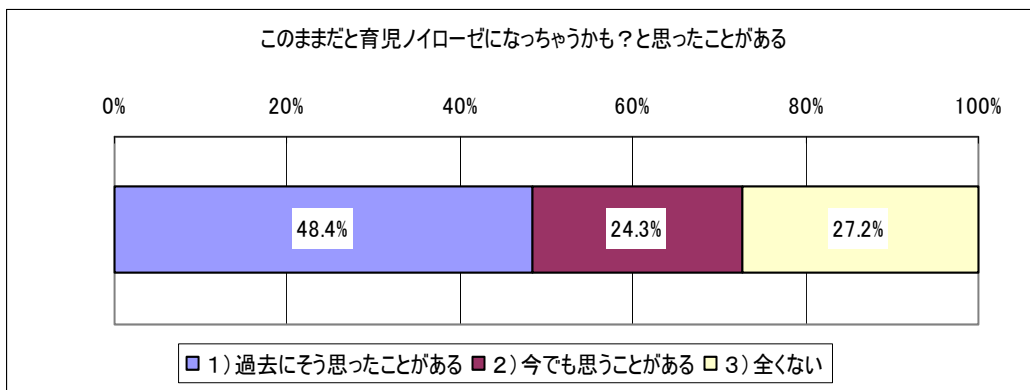
視点を変えると、3～4人中1人が「子育てを楽しんでいない」と答えていることになります。
さらに、「育児ストレスを感じることもある」人は85%と、非常に高いスコアとなりました。



◆育児ノイローゼになっちゃうかも？と思ったことがある人は73%。

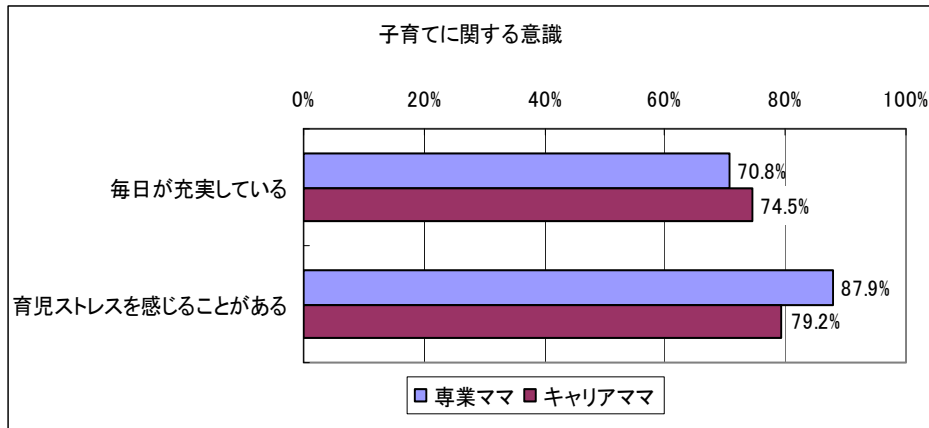
さらに、このままだと育児ノイローゼになっちゃうかも？と「過去に思った」「今でも思うことがある」人は合わせて73%、つまり4人中3人もいることがわかりました。

そして4人に1人は、まさに今「育児ノイローゼになっちゃうかも？」と思っているのです。



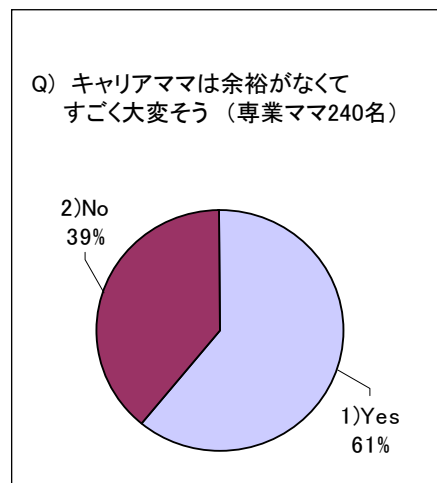
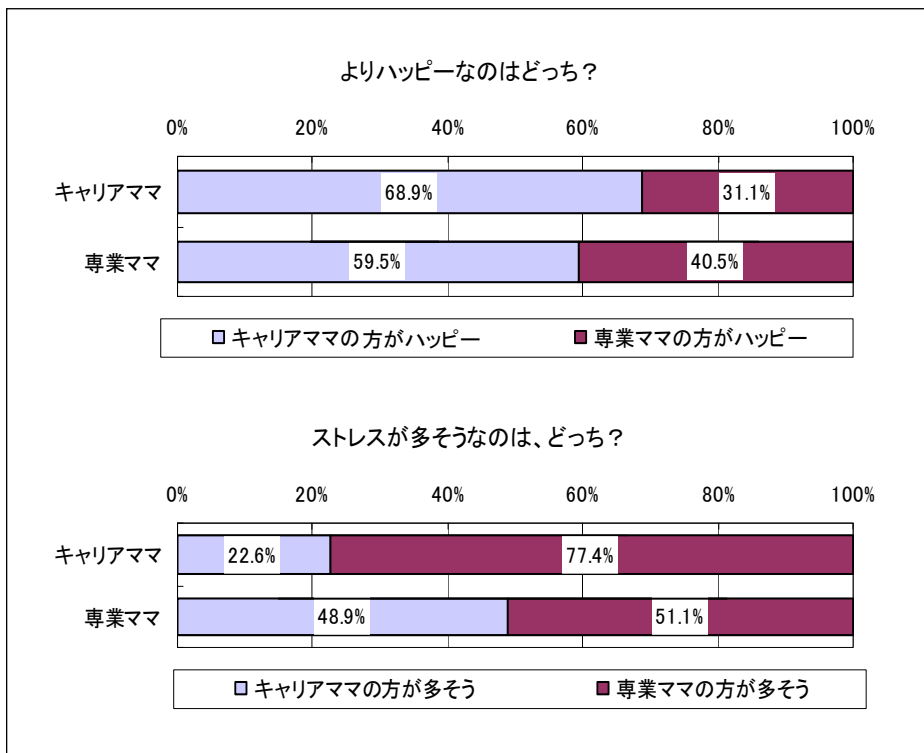
◆専業主ママより、キャリアママの方が、ハッピー？

子育てに対する意識を、専業主ママと仕事を持つキャリアママで比較してみると、キャリアママの方が専業主ママよりも「毎日が充実している度」がやや高く、「育児ストレスを感じる」人の割合が低い、という結果になりました。



それぞれのママを、どう思っているかを聞いてみると...

- 「自分たちのほうがハッピー」と思っている人は、専業主ママでは40.5%、キャリアママでは68.9%でした。専業主ママたちの6割は「キャリアママの方がハッピーみたい」と思っているようです。
- 専業主ママの約6割は「キャリアママは余裕がなくてすごく大変そう」というイメージを持っています。が、「ストレスが多いかどうか」については意見がほぼ半数でわかれました。一方、キャリアママから見ると「専業主ママの方がストレスが多くて大変そう」と思う人が多く、77.4%にのぼっています。キャリアママが「大変」なのは確かだとしても「ストレス」はすくないようです。

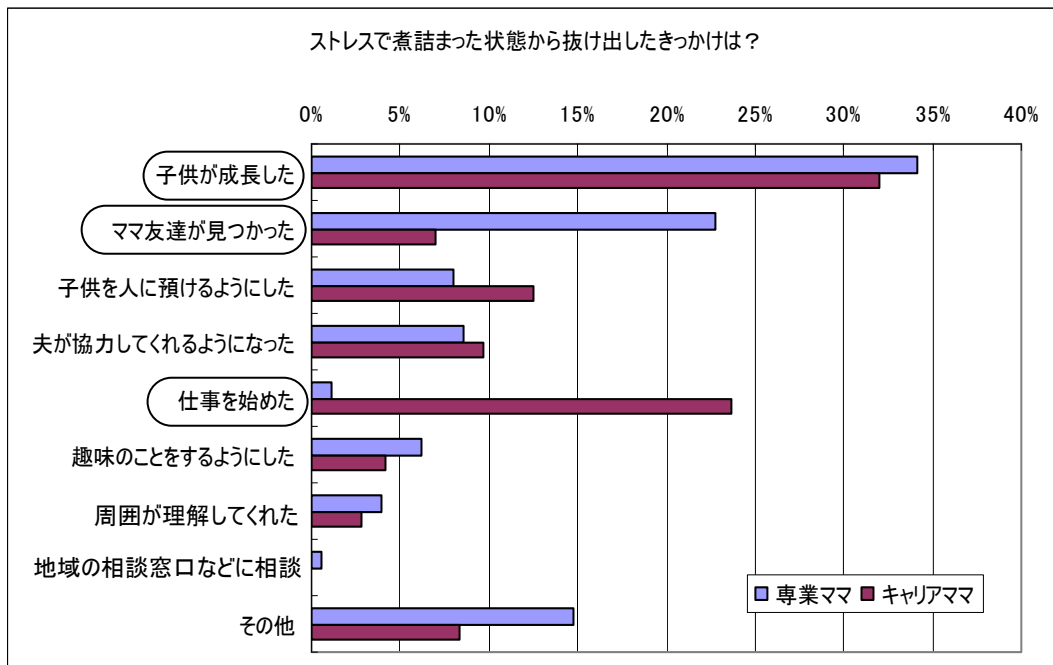
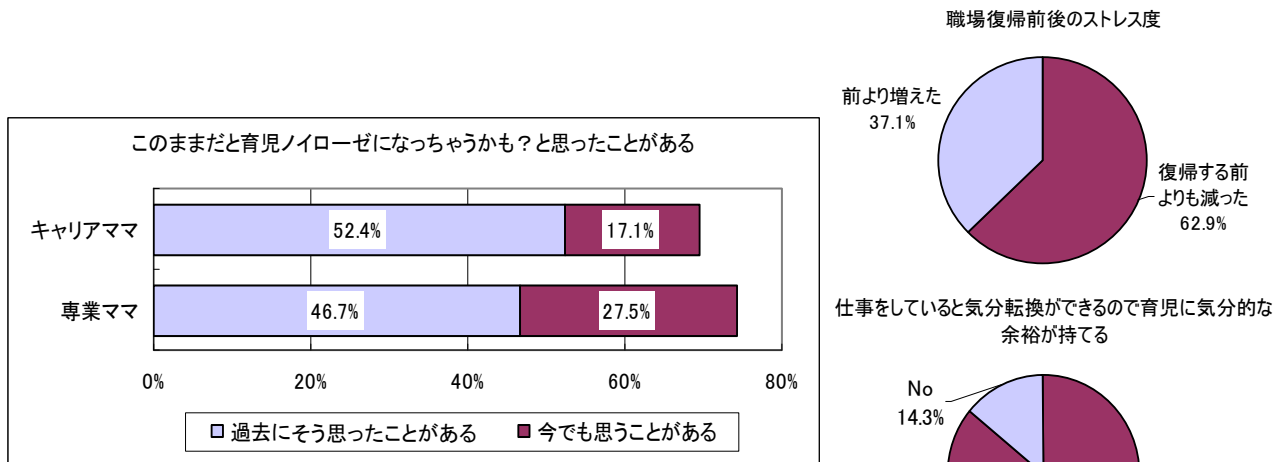


◆キャリアママは、「仕事」をきっかけに育児ノイローゼの危機から脱出！ 専業ママは「ママ友達」。

「育児ノイローゼになっちゃうかも、と思ったことがある」という質問に対して「過去に」「今でもそう思ったことがある」人のは、専業ママ(74.2%)、キャリアママ(69.5%)と、キャリアママの方が低い結果でした。内訳を見ると、キャリアママは専業ママと比べ、「今でも思うことがある」人の割合が低く、育児ノイローゼ手前の煮詰まった状態から、抜け出した人の割合が高いことがわかります。

抜け出したきっかけを探ってみると、専業ママ・キャリアママ共通で1位になったのは「子供の成長」ですが、2位以下はそれぞれ異なり、専業ママでは「ママ友達が見つかった」、キャリアママでは圧倒的に「仕事を始めた」、ついで「人に預けるようにした」が上がってきています。

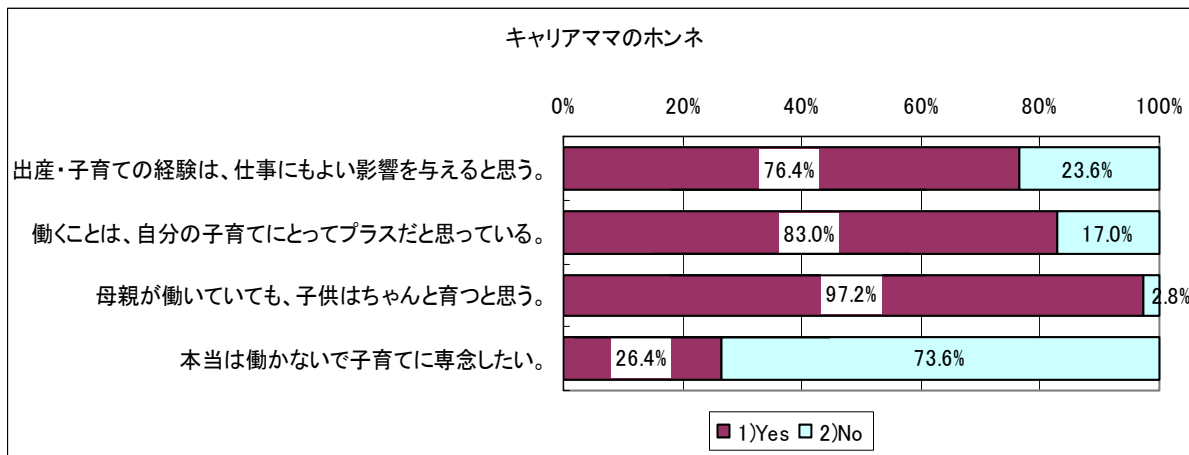
キャリアママのうち、「仕事に復帰した後のほうが精神的なストレスは減った」と答えた人は62.9%、「仕事をしていると気分転換ができるので育児に気分的な余裕が持てる」と答えた人は85.7%でした。仕事を持つことで育児ノイローゼから解放され、生き生きしたキャリアママの様子がイメージされます。



◆前向きな気持ちで、育児と仕事に取り組むキャリアママ

キャリアママたちにさらに聞いてみると、「出産・子育ての経験は、仕事にもよい影響を与えると思う」という人は76.4%。反対に「働くことは自分の子育てにとってプラスだと思う」という人は83.0%と、いずれも非常に高いスコアでした。育児と仕事の両立に、前向きな気持ちで取り組んでいる人が多いことがうかがえます。

また、「本当は働かないで子育てに専念したい」という問いに対して「専念したい」という人は26.4%にとどまっており、残りの73.6%の人たちは、自ら積極的に選んで働いていることがわかります。

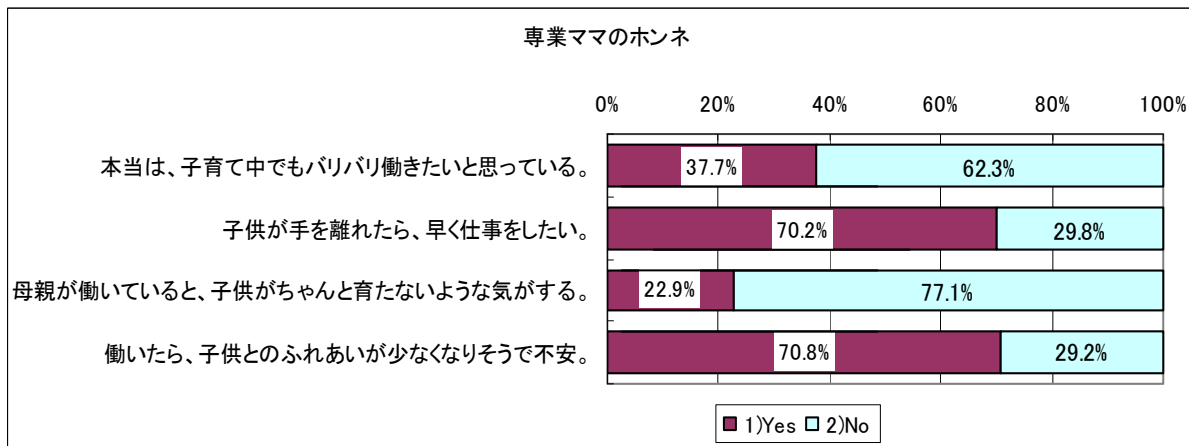


◆専業ママのホンネ～働きたい専業ママは、結構多い。

専業ママのうち、「本当は子育て中でもバリバリ働きたい」という人は、37.7%ですが。また「子供が手を離れたら働きたい」という人は70.2%にも及ぶことがわかりました。

そんな専業ママたちですが、「母親が働いていると子供がちゃんと育たないような気がする」と思う人は少ないようですが、「働いたら子供とのふれあいが少なくなりそうで不安」な人は多いようです。

また同調査の自由回答には、「子供を預かってくれる保育園が見つからず、仕事をしたくてもできない」「子供がいると受け入れてくれる企業が少ない」といった発言が多数寄せられており、ワーキングママに対する社会の受入体制の改善が求められています。



◆共働きの家庭では、パパ以上におじいちゃん、おばあちゃんが活躍！

「共働きの家庭なら、専業主婦の家庭と比べて、夫が家事や育児に協力的で活躍していそう。」
 こんなイメージ、本当のところはどうなのか、調べてみました。

ママの育児分担度を比べてみると、キャリアママの分担度は専業ママと比べてやや低い65.8%でした。
 働いていても、やはり育児の中心がママであることに変わりはないようです。
 では、負担が少なくなっている分は誰が担っているのでしょうか？

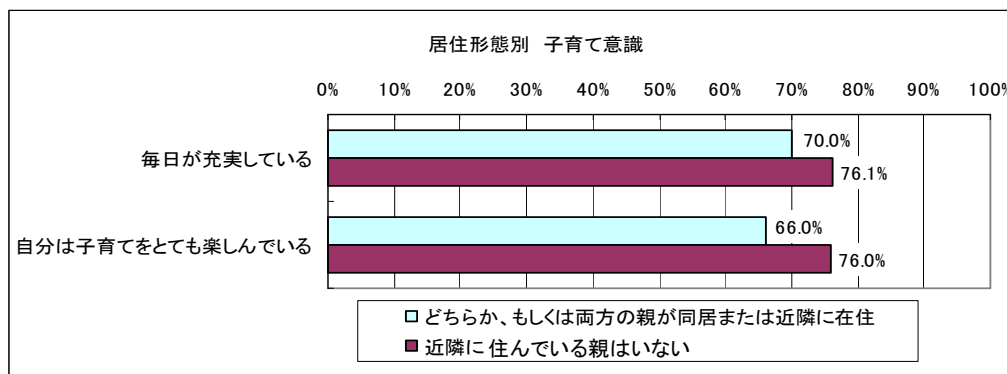
実は、一番身近な協力者である父親(夫)の協力度は、専業ママの家庭とわずか1ポイントしか違いません。
 そのかわり、母親父親の両親のスコアが4ポイントずつ、上がっています。
 働き盛りの父親が育児に時間や労力を割くことは、まだまだ難しいようです。
 キャリアママのサポートに、おじいちゃん、おばあちゃんが大活躍している様子が、はっきりとわかります。

	母親(自分)	父親	母親の両親	父親の両親	その他親族	友人知り合い	その他
全体	71.3%	15.5%	8.7%	5.3%	2.2%	2.5%	0.9%
専業ママ	73.7%	15.1%	7.5%	4.1%	2.2%	2.6%	0.5%
キャリアママ	65.8%	16.3%	11.5%	8.0%	2.5%	2.4%	2.1%

◆「子育てが楽(ラク)」と、「子育てが楽しい」「充実する」ことは、全くの別モノ。

「母親あるいは父親どちらかの両親が近隣に住んでいる人」と「どちらも近隣にはいない」人とを比べてみると、子育てエンジョイ度に意外な発見がありました。

どちらかの親が近隣に住んでいれば、子育てに協力してもらうことができるので、一般的に「どちらも近隣にはいない」人よりも恵まれている、子育てがラクだと思える人が多いと思います。
 が、データを見ると明らかに「どちらも近隣にいない」人の方が子育てエンジョイ度は高いのです。



BaBUサイトの登録メンバーから「親が近くに住んでいるメリットデメリット」に関して生声を拾ったところ、

「どちらかの両親がいれば、普段も、いざというときも頼れるし、精神的にも安心。」
 「おじいちゃんおばあちゃんに、子供のしつけや怪我のことで干渉されるのがすごくストレス。」
 「夫は「うちの両親に預けたら？」と簡単に言うが、私は気兼ねしてしまいストレス」
 「夫婦たった2人だと、いざというとき本当に困ることがある。ちょっと頼ったりもできないので大変。」
 「夫婦2人きりだと、必死に協力せざるを得ないので、夫婦喧嘩をしている暇もない(ので仲がいい)」
 「頼る人がいなくて必死に泣きそうになりながら頑張ってきた結果、親である自分はとても強くなった。」
 「親がいないのは大変だが、干渉されないので、マイペースで育児ができる。」

...などの意見が聞かれました。ここから、どちらの親にも頼らない子育ては「とても大変だが充実感が高い」、
 どちらかの両親が近隣に住んでいると「頼れて楽だが、その分干渉されるのでストレスが大きい」というママ
 たちのホンネが浮かび上がってきます。

「子育てが楽(ラク)」ということと「子育てが楽しい」「充実する」ということは全く別モノであるようです。

●BaBUとは

BaBUとは赤ちゃんのバブバブという音であり、また、博報堂 Baby Business Projectの略でもあります。

少子化が叫ばれる昨今、子供や子育てに対する関心が高まっています。一方、環境問題、過労死、戦争、家庭や教育問題、食品の安全性問題などが噴出する社会のなかで、どう子供を健やかに育てていくか、多くの親たちがこれまで以上に考えている時代でもあります。

そして、このようなパパ・ママたちの商品や社会に対する視点は非常に厳しく、「安全性」や「やさしさ」に対して最も厳しい「生活者」だといえます。このような彼らが納得するようなモノやシステムは、誰にとっても、「必要とされるもの」ではないか。

彼らの視点・発想・意見を、広告制作・商品開発・消費者調査などに、反映していくことは新しいビジネスの方向性を生み出すと同時に、子育てしやすい社会作りのお手伝いにもなると、BaBUは考えています。

BaBUでは、おもにサイトの運営を通じて、子育て中のママ・パパと密接で楽しいコミュニケーション関係を築いています。また、BaBuスタッフには子育て中のパパ・ママが多く、自らの経験とBaBUで得た知見とネットワークを元に、企業に対しては

- ①子育て中のママ・パパ、これからママになる方を対象にしたリサーチパッケージの提供
- ②企業への自発的な提案
- ③集められた意見のリリース
- ④ここで得られた知見をベースにした企業活動サポート

などを展開しています。